

2025
3.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

[NO.693]

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。

志願者三冠王に!

一般選抜
志願者数志願者
増加数私立大学
志願者数過去最多

大学		2025年度	2024年度	増減数
		志願者数	志願者数	
1	千葉工業	162,005	142,645	19,360
2	近畿	157,563	147,113	10,450
3	明治	115,323	109,159	6,164
4	東洋	113,762	102,895	10,867
5	法政	105,107	102,169	2,938
6	立命館	96,917	95,779	1,138
7	早稲田	95,938	89,420	6,518
8	日本	92,232	75,839	16,393
9	関西	79,859	72,586	7,273
10	中央	73,803	65,993	7,810

代々木ゼミナール調べ(3/28更新)

大学		2025年度	2024年度	増減数
		志願者数	志願者数	
1	千葉工業	162,005	142,645	19,360
2	桜美林	28,727	10,011	18,716
3	日本	92,232	75,839	16,393
4	東京工科	24,660	12,222	12,438
5	東洋	113,762	102,895	10,867
6	近畿	157,563	147,113	10,450
7	実践女子	11,194	3,254	7,940
8	中央	73,803	65,993	7,810
9	明治学院	30,485	23,055	7,430
10	関西	79,859	72,586	7,273

代々木ゼミナール調べ(3/28更新)

順位	年度	大学	志願者数
1	2025	千葉工業	162,005
2	1989	早稲田	160,150
3	1990	早稲田	159,514
4	1992	早稲田	157,847
5	2025	近畿	157,563
6	2022	近畿	157,434
7	1991	早稲田	157,175
8	1990	日本	156,627
9	2018	近畿	156,225
10	2019	近畿	154,672

豊島織男事務所提供

<https://chibatech.jp/>

歴史的快挙!

2025年度一般選抜志願者数で
「全国No.1」達成

3月4日のC日程入学試験を最後に、2025年度入学試験がすべて終了しました。2025年度入試において、本学の志願者数は162,005人となり、私立大学の中で志願者数第1位となる記録を達成しました。2016年以来、全私学の志願者ランキングでベスト10入りを果たし、2021年からは4年連続2位をキープ。今回初の1位となった記録は、1989年、早稲田大学の16万150人という数字を36年ぶりに更新するものです。

また、前年からの志願者増加数も1万9,360人増と全国最多を記録し、これにより本学は上記の三部門で、初めて『三冠王』の快挙を、成し遂げました。

[P2へ続く]

P2 本学2025年度入試がすべて無事に終了／臨界期のメカニズムを理解するための数理モデリング開発をめざす／超小型衛星4号機「BOTAN」2025年夏に宇宙へ!

P3 額賀さん、三浦さんが「NCSP'25 Student Paper Award」を受賞／茅中さん、菊地さん、清野さんが「卒業論文優秀賞」を受賞

P4 木澤さんが「電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会賞」を受賞／若林さんが「千葉市大学市長賞」を受賞～地域貢献と持続可能なまちづくりへの貢献～／先端材料工学専攻の布施さんと藤木さんが「令和6年度 軽金属希望の星賞」を受賞

P5 山形工業高等学校と包括的連携協定を締結／本学柔道部、東京理科大学柔道優勝大会で三連覇を達成／「新習ふれ愛まつり」で風神が演舞披露、観客と一体となって盛り上がる

P6 田島研究室が成田Meets!プロジェクトに参画、空き家の再生に挑戦

P7 定年退職の皆さん

P8 就職・進路支援だより／コラム

本学2025年度入試がすべて無事に終了

2月のB日程・SB日程入試は、2月17日(サテライト17会場)、18日(同6会場)に実施されました。18日には、津田沼駅で発生した人身事故の影響により、試験開始を1時間繰り下げる対応がありましたが、いずれの日程も無事に終了しました。また、3月4日に実施された3月試験(サテライト4会場)をもって、すべての入試日程が終了しました(各試験の志願者数は右表参照)。

今年度の志願者数が過去最多を記録した要因としては、共通テスト利用入試の検定料免除、学科間併願時の追加受験料の不要化、試験日前日までの出願受付など、受験生の利便性を高める施策を継続して行ってきたことが挙げられます。さらに、時代のニーズに合わせて、法人主導でスピーディーに学部、学科を改編、今年度から新設される「宇宙・半導体工学科」の影響も大きい。こうした常に時代を見据えた柔軟な取り組みが、多くの受験生および保護者からの信頼と支持を集める結果となりました。

2025年度志願者数

試験種	2025年度	2024年度	増減
共通テスト利用(前期)	64,034	60,252	3,782
共通テスト利用(中期)	11,350	7,316	4,034
共通テスト利用(後期)	8,694	5,200	3,494
A日程入学試験	31,074	33,869	▲ 2,795
SA日程入学試験	13,274	14,645	▲ 1,371
B日程入学試験	19,033	13,743	5,290
SB日程入学試験	10,449	5,055	5,394
C日程入学試験	4,097	2,565	1,532
一般選抜計	162,005	142,645	19,360

臨界期のメカニズムを理解するための数理モデリング開発をめざす

本学、大学院情報専攻修士課程2年の松元唯吹さん、情報工学科の信川創教授、数理工学研究センターの酒見悠介上席研究員、金丸隆志氏(工学院大)、Nina Sviridova氏(東京都大)、栗川知己氏(公立はこだて未来大)、我妻伸彦氏(東邦大)、合原一幸氏(東京大)らの研究チームは、スパイクングニューラルネットワーク(Spiking Neural Network: SNN)を用いたシミュレーションにより、顕著な神経回路の発達が見られる臨界期において、抑制性の成熟がガンマ帯域の神経活動の外的刺激に対する応答性を向上させることを明らかにしました。これまで臨界期のトリガーとして抑制性回路の成熟がよく知られており、数理モデルや動物実験で検証

が行われてきましたが、抑制性ニューロンの活動や認知機能と関連の深いガンマ帯域での評価は十分に行われていませんでした。研究チームは、複数の興奮性ニューロンと抑制性ニューロンで構成され、ガンマ帯域の振動を誘発するSNNを用いて、入出力の同期の程度を定量化することで神経活動の応答性を評価しました。その結果、SNN内の抑制性レベルの増加がガンマ帯域の刺激に対する神経応答を向上させることを示しました。この成果は、臨界期のメカニズムを理解するための数理モデリング開発の一助となることが期待されます。この研究成果は、2025年1月22日にスイスの科学雑誌「Frontiers in Neural Circuits」で発表されました。



研究チームの大学院情報専攻修士課程2年の松元唯吹さん

超小型衛星4号機「BOTAN」2025年夏に宇宙へ！

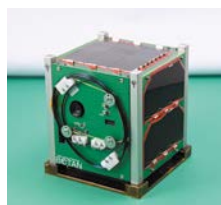
本学では、拡大する宇宙産業を支えるため、2021年4月より「高度技術者育成プログラム」を実施し、学生主体の人工衛星開発を推進しています。その一環として開発された超小型衛星「BOTAN」が、2025年2月28日、JAXA(宇宙航空研究開発機構)に引き渡されました。

これまで、「KASHIWA」(2024年4月11日ISSから放出)、「SAKURA」(2024年8月29日ISSから放出)、「YOMOGI」(2024年12月9日ISSから放出)と3機の人工衛星を宇宙に送り、運用が成功しています。

今回、JAXAに引き渡した「BOTAN」は2023

年4月に当時の学部2年生が製造に着手した10cm×10cm×10cmの超小型衛星で、本プログラムでは4号機となります。学生達はプログラムに参加する中で「宇宙で確実に動く」衛星を作る為に学びを重ねてきました。また衛星の打ち上げに必要な各種申請や試験も学生自らが担当しました。

「BOTAN」はこの後、2025年夏にロケットで国際宇宙ステーション(ISS)に輸送される予定で、一定期間の保管を経て、軌道に投入されます。



超小型衛星「BOTAN」の外観



「BOTAN」を製造した高度技術者育成プログラム4期生(現:学部3年生)

額賀さん、三浦さんが 「NCSP'25 Student Paper Award」を受賞

電気電子工学科4年の額賀^{がしやうさん}伶大さんと三浦正道さん(共に魏秀欽研究室)が、非線形回路、通信、信号処理に関する国際ワークショップ「NCSP'25」において「Student Paper Award」を受賞しました。本賞は、優れた論文や発表を行った学生に贈られるもので、額賀さんと三浦さんは、それぞれの研究成果が高く評価され、受賞に至りました。授賞式は2025年3月2日、マレーシア・ペナンで行われました。

額賀さんの研究テーマは「Analysis-Based Design of Class-E² Wireless Power Transfer System with Parasitic Components of Switching Devices at Any Duty Ratio(任意時比率におけるスイッチング素子の寄生成分を考慮したE²級WPTシステムの解析)」。

魏研究室では、高周波・高効率なスイッチング電源の設計開発に関する研究を行っており、額賀さんの研究では、解析理論に基づいてスイッチング素子の寄生成分を考慮したE²級ワイヤレス給電(WPT)システムの解析・設計手法を提案しました。さらに、シミュレーションと回路実験に

よりその妥当性を確認し、ワイヤレス給電技術の精度向上に貢献しました。

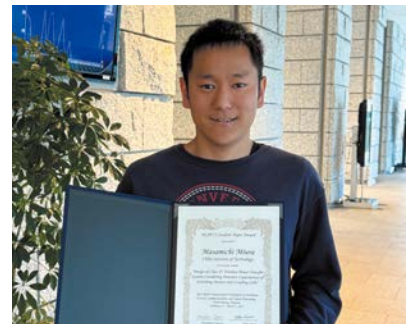
一方、三浦さんの研究テーマは「Design of Class-E² Wireless Power Transfer System Considering Parasitic Capacitances of Switching Devices and Coupling Coils(スイッチング素子と送受電コイルの寄生容量を考慮したE²級WPTシステムの設計)」。

近年、ワイヤレス給電技術の実用化が進む中、さらなる小型化と高効率化が求められています。本研究では、スイッチやコイルの寄生成分を考慮した設計を行い、ワイヤレス給電の性能向上を目指しました。より効率的で実用的なWPTシステムの開発に貢献する成果として評価されました。

今回の受賞で、額賀さんは「受賞できたことを大変嬉しく思います。魏先生や共同研究者の皆さんの助力があり受賞することができました。皆さんにとっても感謝しています」と語り、三浦さんは「英語での発表に不安がありましたが、受賞を通じて少し自信ができました。今回の経験を生かして、今後も研究や英語の勉強に励みたいです」と喜びを述べました。



額賀伶大さん



三浦正道さん

茅中さん、菊地さん、清野さんが 「卒業論文優秀賞」を受賞

知能メディア工学科4年の茅中琴音さんと菊地あかりさん(宮田高道研究室)が、公益社団法人千葉県情報サービス産業協会(CHISA)主催の「卒業論文優秀賞」を受賞しました。本賞は、第14回千葉県内大学による卒業論文発表会において、特に優れた発表を行った学生に授与されるもの。授賞式は2月28日、WBGマリブウエストにて行われました。

二人の研究テーマは「ビジョン言語モデルを用いた空撮画像からの異常検知」。

本研究では、ドローン上での高精度な異常検知を目的とし、従来手法の課題を解決するために、軽量モデル「Janus」を用いた異常検知手法「AnomalyJanus」を提案しました。従来のAnomalyGPTはモデルが大規模すぎ、CLIPは精度が不十分という課題がありましたが、提案手法では精度向上とデータ送信量の削減を同時に実現しました。さらに、実験のために正常画像20枚、異常画像20枚から成るデータセットを作成し、AnomalyJanusの有効性を検証。その結果、accuracy 0.90、recall 0.85、precision 0.94を記録し、提

案手法の有効性が示されました。

茅中さんは「実装を担当したが、想定していた方法では精度が十分に出ず、別の既存手法を用いたアプローチに切り替えたため、1からの再スタートとなり苦労した」とふりかえるとともに、「これまでの研究を評価していただけて嬉しいです。大学院進学後の研究にも意欲的に取り組みたい」と話しています。また、菊地さんはデータセットの作成に苦戦し、画像生成AIでは災害を表現した真上からの空撮画像を作ることが困難で、最終的には土砂崩れや倒木を手作業で行うなどの苦労があったものの、「約1年間取り組んできたこの研究を表彰していただき、とても嬉しく思います」と喜びを述べました。

また、同学科4年の清野太貴さん(今野将研究室)も同賞に輝きました。研究テーマは「ルート学習支援のためのARナビにおけるランドマーク提示法に関する研究」。

歩行者がルートを学習する際に目印とするランドマークに関して、学習効果を上げるためのランドマークの種類やその提示方法に関して複数パター



左から清野さん茅中さん菊地さん

ンを用意してその効果を検証しました。

清野さんは「努力した結果なので、素直に嬉しいです。また、ご指導くださった先輩・先生、実験に参加してくれた同期の仲間にも感謝です。今回の受賞に満足せず、社会人になっても努力を怠らず精進していきます」と話しています。研究過程での、多くの試行錯誤を経験し、「分からない用語に対して自分なりに噛み砕き、教授や先輩に積極的に質問することを心がけました」と振り返りました。

木澤さんが 「電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーション基礎 (HCS)研究会賞」を受賞



情報工学科4年の木澤妃名子さん(有本泰子研究室)が、電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会賞を受賞しました。本賞は、同研究会において1年間に発表された研究報告の中から、対象分野の発展に寄与する優れた研究に贈られるもの。表彰式は2025年3月13日、静岡大学浜松キャンパスにて行われました。

研究テーマは「対話相手の笑い声に誘発された共起笑い時の生理反応の分析」。本研究では、会話中に相手の笑い声によって誘発された笑い、その他の要因による笑いが話者の心的状態にどのような影響を及ぼすか、生理反応を用いて調査しました。その結果、対話相手の笑い声以外の要因で笑った場合のほうが、表情の筋肉活動がより活発になることが明らかになりました。この成果は、人と人との自然なコミュニケーションのメカニズム解明に貢献するものです。

木澤さんは「初めての発表で賞をいただき、とても嬉しく思います。指導してくださった有本先生や研究室のメンバーに心から感謝し、今後も研究に励んでいきたいです」と喜びを語りました。

若林さんが 「千葉市大学市長賞」を受賞 ～地域貢献と持続可能な まちづくりへの貢献～



デザイン科学科4年の若林大輔さん(橋本都子研究室)が、千葉市より「千葉市大学市長賞」を受賞しました。この賞は、千葉市のまちづくりや地域活性化に顕著な貢献をした大学生・短大生を表彰するもので、表彰式は2月28日に行われました。

受賞の背景となったのは、2024年3月に千葉市立有吉小学校の笹本校長から橋本都子研究室へ寄せられた相談に端を発するプロジェクトです。有吉小学校では、マリNSTADIAムで使用されていた人工芝を再利用し、子どもたちの居場所を作る計画が持ち上がり、若林さんがリーダーとなる学生チーム10名がこれを実現しました。

この取り組みは、資材の再利用を通じた持続可能なまちづくりへの貢献に加え、子どもたちの居場所づくりを通じて、不登校児童の増加抑制や地域コミュニティの活性化に寄与した点が評価されました。

若林さんは「研究室のメンバー全員で試行錯誤し続けたからこそ得られた賞だと思います。設営後の子供たちの喜ぶ姿やその空間を使用している様子を見て、プロジェクトを実施して良かった」と話しています。

先端材料工学専攻の布施さんと藤木さんが 「令和6年度 軽金属希望の星賞」を受賞

先端材料工学専攻 修士2年の布施直哉さんと藤木恭典さん(いずれも田村洋介研究室)が、一般社団法人軽金属学会より「令和6年度 軽金属希望の星賞」を受賞しました。本賞は、軽金属分野の発展を担う若手研究者を奨励する目的で授与されるもの。布施さんと藤木さんは、それぞれの研究成果や学会発表での貢献が評価され、今回の受賞に至りました。

布施さんの研究テーマは「電磁凝固プロセスにより作製したAl-Si共晶合金の機械的性質」です。本研究では、電磁凝固プロセスを用いて初晶を試料表面に分離し、従来にはないユニークな合金組織を形成できることを示しました。X線CTを用いた材料評価や引張試験を通じて、このプロセスが強度と延性に優れたアルミニウム材料の開発に寄与する可能性を明らかにしました。

一方、藤木さんの研究テーマは「AZ31Bマグネシウム合金板材の円筒深絞り加工にともなう組織変化」です。マグネシウム合金の深絞り成形挙動に関する基礎的知見を得るため、様々な条件下での円筒状成形を行い、ひずみやミクロ組織の変化を分析しました。その結果、成形性向上のための新たな知見を得ることができ、高性能なマグネシウム合金製品の製造技術の向上に貢献することが期待されています。

受賞にあたり、布施さんは「研究が評価され大変光栄です。指導してくださった田村先生や研究室の皆様感謝し、今後も研究に励みたい」と話し、藤木さんは「学部4年から取り組んできた研究が評価され嬉しく思います。支えてくださった先生や仲間に感謝しています」と喜びを述べました。



布施直哉さん



藤木恭典さん

山形工業高等学校と包括的連携協定を締結

本学と山形県立山形工業高等学校（山形県山形市／校長：高橋 良治）は、2月26日に包括的な連携協定を締結しました。協定式は山形工業高等学校にて執り行われ、瀬戸熊修理事長、高橋校長が両校の教育・研究の発展と人材育成を目的とした協力関係を正式に合意しました。

本協定に基づき、両校は探究活動の推進、進学支援、キャリア構築の支援など、多

岐にわたる連携を進めます。具体的には、本学による模擬授業や進路講演会の実施、大学見学の受け入れ、教育・研究の協力などを予定しており、次世代を担う技術者の育成に寄与していきます。

本協定を通じて、千葉工業大学と山形工業高等学校は、相互理解を深めながら、学問・文化の発展に貢献し、地域社会および産業界で活躍する人材の育成に取り組んでいきます。



山形工業高等学校高橋校長（右）と瀬戸熊理事長

本学柔道部、東京理科大学柔道優勝大会で三連覇を達成

令和6年度（第10回）東京理科大学柔道優勝大会が10月6日、東京都市大学世田谷キャンパスで開催され、本学体育会柔道部（主将：早川景都[PM2]、コーチ：佐々木練[電気電子工学専攻2年]、部長：坂本幸弘[先端材料工学科教授]）が男子団体試合で見事三連覇を果たしました。

本大会には、本学のほか、工学院大、芝浦工業大、東京電機大、東京都市大、東京理科大Ⅰ部、法政大の7校が参加し、今年度から東京理科大Ⅱ部も新たに加わりました。参加校はA・Bの2リーグに分かれ、本学はAリーグを1位で通過。Bリーグ1位の芝浦工業大学と優勝決定戦を行いました。また、本学柔道部の佐々木コーチは、全日本柔道連盟公認Cライセンス審判員資格を保有しており、本大会で審判員を務めました。

佐野翔太選手のコメント

「令和6年度は、全日本理工科学学生柔道優勝大会（6月）優勝、東京理科大学柔道優勝大会優勝と、理工科学学生大会2冠を達成することができました。お世話になっている柔道部関係者の皆様（坂本先生、金子満男先生、OB会長の森内強先輩[土木S50]）に対し、結果で恩返しできたことを大変誇りに思います。次年度も理工科学学生大会2冠はもちろん、大学柔道日本一を競う全日本学生柔道優勝大会への出場をめざします。」



戦いに臨む柔道部学生（対芝浦工業大戦）

男子団体試合出場選手

石井隆太郎[生命科学専攻1]、平川陽大[材料3]、高橋佑太[材料3]、佐野翔太[知能3]、深瀬皓也[PM2]、佐野健太[知能1]、片嶋昇大[経テ1]

優勝決定戦の結果

- 先鋒戦** 片嶋選手 …得意の体落として果敢に攻め引き分け。
- 次鋒戦** 平川選手 …大内刈りから内股へと変化し一本勝ち。
- 中堅戦** 佐野翔太選手 …キレの良い内股で秒殺、一本勝ち。
- 副将戦** 佐野健太選手 …早々と足車で「技あり」を先取。続いて、小外掛けで体を浴びせ、合わせ技一本勝ち。
- 大将戦** 石井選手 …厳しい組み手争いから相手をひざまずかせ、縦返しから後ろ袈裟固めに移行し一本勝ち。

結果、優勝決定戦を4対0で圧勝し、大会三連覇を達成しました。

「新習ふれ愛まつり」で風神が演舞披露 観客と一体となって盛り上がる

3月8日、「新習ふれ愛まつり」が習志野市秋津3丁目の新習志野公民館で開催され、本学の「よさこいソーラン風神部」が演舞パフォーマンスを披露しました。

開始時刻の12時10分、屋外の広場で学生たちの華やかで力強い演舞が始まると、観客からは歓声や手拍子が上がり、会場は一気に活気に包まれました。最後の楽曲では、学生と観客、子どもたちが一緒に踊る場面もあり、輪になって盛り上がるなど、にぎやかな雰囲気の中で演舞が締めくくられました。

風神部の20代目主将を務める、高橋蒼生さん（未来ロボティクス学科2年）は、「20代目として初めて習志野市で演舞を披露できて光栄です。先輩方が大切にしてくださった“学生チームらしい笑顔と元気”を届けられたと思います」と話していました。また、会場には昨年引退した19代目主将の飯倉菜那さんも訪れ、「後輩たちの演舞を見て、前よりも笑顔が増えたなと感じました。“笑顔”という言葉がこれからも大事にして、練習を頑張ってください」と温かいエールを送りました。



華やかな演舞で観客を魅了する学生たち

田島研究室が成田Meets!プロジェクトに参画 空き家の再生に挑戦



お掃除WSに参加したメンバーで記念撮影



様々な場所を点検中



空き家の状況を調査



成田での最終発表の様子

千葉県成田市の成田山新勝寺には年間1,000万人が訪れます。多くの参拝客が賑やかな「表参道」を通る一方、かつて映画館や飲食店で栄えた「裏参道」のある花崎町は空き家や空き店舗が増え、人通りも少なくなっています。成田が国際空港を擁するにもかかわらず、成田駅近くの旧市街地は素通りしてしまい、訪日外国人の滞在が短いことも課題です。こうした状況を受け、花崎町の活性化をめざす「成田Meets!プロジェクト」が立ち上がりました。

このプロジェクトは、観光・マーケティングを手掛けるOrange株式会社と地元の建設会社である平山建設、そして、千葉工業大学 田島研究室が協働して進めています。花崎町の空き家をリサーチするところから始め、地域に必要な施設や活用方法を検討して、地域全体を再生につなげていく活動です。すでにアトリエの設置やイベントスペースの企画運営を行い、地域と連携したまちづくりに取り組んでいます。

2024年11月末には、田島研究室が中心となって、空き家の一つである釣具店にて、「成田の裏道、花崎町から見える未来」と題した発表会を行い、花崎町の歴史や空き家の状況、そして再生の方向性について発表会を開催しました。また、同時に地域の住民も一

緒になって「ナリタカイギ」を開催し、「シェアオフィスやゲストハウスがほしい」「子どもが遊べる場所があるとよい」などの意見を集めました。地域の人々が裏参道の可能性を再認識する機会となりました。また、2025年は、空き家の再生とともに、空き地も活用した新しいゲストハウスの企画や設計も進める予定です。

参加した田島研究室の内藤大生さんは「成田山や裏参道のことをほとんど知りませんでしたが、まちの再生を実践的に学べてよい経験になりました」と話します。こうした活動は、学生にとって都市再生や地域活性化の現場を学ぶ貴重な機会となっています。

田島則行准教授は「地域の再生を地元の企業や行政とともに、産官学のコラボレーションで進める成田市の再生プロジェクトは、「コミュニティ・アセット」として空き家や空き地を活用する実践プロジェクトであり、地方創生に繋がる試みとして全国的にも注目されつつあります。」と述べています。

田島研究室の活動については、研究室公式サイトやYouTube動画で紹介されています。「成田Meets!プロジェクト」は、千葉工業大学の学生が地域と協力し、新たな価値を生み出す試みです。今後の展開が期待されます。

定年退職の 皆さん

3月に定年を迎えられた
教職員の皆さんを紹介します。

大学と学生たちに、
思い出と励ましの言葉を
残してくださいました。
(敬称略)



松井 伸介 | 機械電子創成工学科・教授

学生諸君、教職員の方々と接しているうちに勉強になりました。今後も勉強続くとおもいます。ありがとうございました。



本保 元次郎 | 先端材料工学科・教授

長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。千葉工大の更なる発展を願っています。



五明 美智男 | 生命科学科・教授

野外での研究活動を通じ、学生の現場センスを磨くことに注力した13年間でした。支えていただいた職員、教員、地域の皆様に感謝！共に学んだ学生達にありがとう！



相川 文弘 | 教育センター・教授

学生や教職員の皆さんからたくさんの元気をもらいました。ありがとうございました。



利波 雄一 | 教育センター・教授

居場所を与えてくれた千葉工業大学に感謝 Big thanks CIT!



布川 正広 | 津田沼キャンパス・警備主任

11年間、有意義に充実した勤務が出来ましたことを、心より感謝いたします。ありがとうございました。



およかわ 及川 晃 | 津田沼キャンパス・警備主任

「感謝」しかありません。ありがとうございました。



服部 憲助 | 新習志野キャンパス・警備員

学生さん達から元気をもらい、教職員の方々からは優しく接して頂き、最高の環境の中で勤務させていただきましたことに心より感謝しております。

就職・進路に役立つ情報をお届けします

就職・進路支援だより

資格検定支援講座、
語学能力開発講座を開設

資格・検定・語学能力開発支援講座のご案内

大学では、就職活動や自己啓発への支援として、学生の皆さんのニーズに合わせた各種資格検定支援講座を準備しています。2023年度より講座内容を充実させ、より理系学生の夢の実現に近づける内容で展開をしております。この度、2025年度の実施概要が決まりましたので、お知らせいたします。公務員講座及び語学力検定は大幅な割引価格での提供となっており、それ以外の一部資格講座においては、割引価格に加えて合格者へ更に奨励金（講座料金の約40%、条件あり）を支給する制度がありますので、是非ご活用ください。また、長期休暇中に受講できるよう、一部講座の開講期間等を変更しております。各講座詳細と受講料及び奨励金支給条件は、時期に合わせて学生向けメール配信等でお知らせいたします。

3年生・修士1年生向け支援

4月も、千葉工大生を積極採用する企業が集まる「学内合同企業説明会」、及び各企業の「個別説明会」を実施予定です。日程等の詳細は、メール配信でお知らせいたします。スムーズな就職活動のためにも、積極的に参加してください。4月に入ると、一部企業はエントリーを締め切る場合もあります。何をしたら良いかわからない、不安でなかなか進めないといった悩みがあれば、迷わず就職・進路支援部にご相談ください。就職システムからの個人面談予約も可能です。

2025年度 資格・検定取得支援講座および語学能力開発講座

講座名	開講回数(年)	開講期間	開講方法	受講金額	備考
1 公務員試験対策講座(技術)	1回	5月～翌年6月	オンデマンド	56,000円	
2 公務員試験対策基礎講座(学部2年生対象)	2回	8月・1月	オンデマンド	検討中	
3 SPI重要論点ピックアップ対策講座	2回	8月・1月	オンデマンド	検討中	
4 秘書技能検定2級	2回	5月～6月 10月～11月	オンデマンド	18,700円	※1
5 知的財産管理技能検定3級	1回	10月～11月	対面	無料	※1,※2
6 FP技能検定受験対策講座3級	2回	8月～10月 1月～2月	オンデマンド	13,770円	※1,※2
7 ITパスポート	2回	8月～12月 1月～6月	オンデマンド	17,500円	※1,※2
8 情報セキュリティマネジメント	2回	8月～12月 1月～6月	オンデマンド	17,850円	※1,※2
9 基本情報技術者	2回	4月～10月 10月～4月	オンデマンド	29,000円	※1,※2
10 電気主任技術者三種	1回	1月～7月	オンデマンド	208,000円	※1,※2
11 特別英会話トレーニング講座	1回	6月～7月	対面・実習	5,000円(昨年度実績)	
12 TOEIC L&Rテストの英語[450点]	2回	5月～7月 9月～11月	対面およびライブ配信	無料	テキスト代のみ自己負担
13 TOEIC OLP(400点以上対象)	通年	約1年間	オンデマンド	18,700円	

※1 語学力検定以外の資格検定(上記No.4～10)について原則合格者には奨励金を支給(講座料金の約40%)

※2 教養特別科目「キャリアアップラーニング」指定資格

26卒対象 学内合同企業説明会(4月開催分)

日程	参加予定企業
4月22日(火) 対面	TTデータMHIシステムズ、ミツイフ、東京鋼鐵、雄電社、太平洋製鋼、オーエム製作所、ナカ工業、ナラサキ産業、武蔵エンジニアリング、駿河生産プラットフォーム 他
4月23日(水) 対面	ミマキエンジニアリング、日鉄SGワイヤ、鉦研工業、ダイトロン、沖電線、NTTデータエマーズ、ニッペコ 他
4月24日(木) オンライン	ユニ・チャームプロダクツ、大森機械工業、ユニプレス、アイティフォー、イトーヨーカ堂、植木組、ミクニ、ヨシモトボール、富士通Japanソリューションズ東京 他

対象：3年生、修士1年生(2026年卒生)

予約：就職システムの支援行事予約

★各企業詳細や実施場所・時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。

★対面は、津田沼キャンパスで実施。

同窓会



桜の花と聞くと昔は4月の入学式のイメージが強かったのですが、最近では3月下旬のイメージになってきました。お花見で見るほとんどがソメイヨシノですがソメイヨシノはみんなクローンだって知っていましたか？

ソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンを交配させてつくったものです。

ソメイの名前は地名で江戸時代から明治にかけて染井村の植木職人達によって品種改良されたため、ヨシノは桜の名所である吉野山からつけられています。ちなみに吉野山の桜は8割がヤマザクラでシロヤマザクラが中心です。

ソメイヨシノ同士は自然交配することは出来ないで人がクローンをつくらないと増えることはありません。他の種類とは交配することが出来ませんがソメイヨシノではなくなくなってしまいます。

ソメイヨシノは花卉が5枚一重咲きで成長が早いとお花見に適しています。葉が伸びる前に花が咲くので全体が淡いピンクでとても綺麗ですね。

情報工学科 佐藤 愛実

四季雑感



今年度、私の研究室には2人の修士2年の大学院生が所属していました。私が千葉工大に着任した2019年に彼らは入学した、言わば同期です。修士2年になったこの一年間は、自身の研究を進める傍らで後輩指導も熱心に行ってくれたため、4年生の卒研シーズンは例年よりも負担が少なく感じ、とても感謝しています。それぞれアメリカとシンガポールで開催された国際学会で発表する機会を設けられたことは彼らにとって良い経験であり、楽しい思い出になりました。彼らの卒業は少し寂しいですが、研究室に配属されてから3年半の間、近くで成長を見ることができ嬉しく思います。

3月に卒業、修了する学生のみなさん、卒業おめでとうございます。前半はコロナ禍で学生生活もずいぶん制限されてしまいましたが、後半からは従来の大学生活を楽しめてくれていたら何よりです。就職する方も進学する方も4月から新しい挑戦が待っています。本学で学んだことを目一杯発揮し、活躍できることを願っています。

情報通信システム工学科 木下雅之

編集だより



本学学報が、今年度からWeb上での公開のみとなり、気づけばあっという間に一年。先生方や学生の皆さんからのニュースをいち早くお届け…とはいかず、原稿の執筆仕様に四苦八苦の一年でした。この4月から、Webサイトがリニューアルされることになり、2014年からの過去データを拾い集める作業の中で、前編集担当者との温かいやりとりで改めて触れる機会がありました。「校了まであと一歩」「次号もめげずにがんばりましょう」など、数えきれないほどの励ましの言葉、時折「老体にムチ打ってぼちぼちいきます」などほっこりした返信も。もちろん、ときには厳しい叱咤もあり、校了日厳守!と、背筋の伸びる思いで真剣に学報制作に取り組んでいました。

現担当の編集Nさんは何も言わず優しく見守ってくれる方。でも、私に必要なのは優しくではなく厳しさなのだ気づいてしまった。ムチで叩かれるくらいでないと、図々しさに胡坐をかいて、作業が進まない…。次年度は、当たり前のスケジュール進行が出来るよう、ビシバシご指導下さい。

入試広報課 大橋慶子